

令和4年度

「山・海・島」体験活動指導者養成研修会

特別活動における集団宿泊活動が もつ意義とその可能性

令和4年10月31日（月）

文部科学省初等中等教育局 視学官

安部 恭子

これからの時代を生きる子供たち
に必要な資質・能力を育む

学習指導要領 前文

(前略) これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。
(後略)

令和4年度

全国学力・学習状況調査
質問紙調査 報告書から

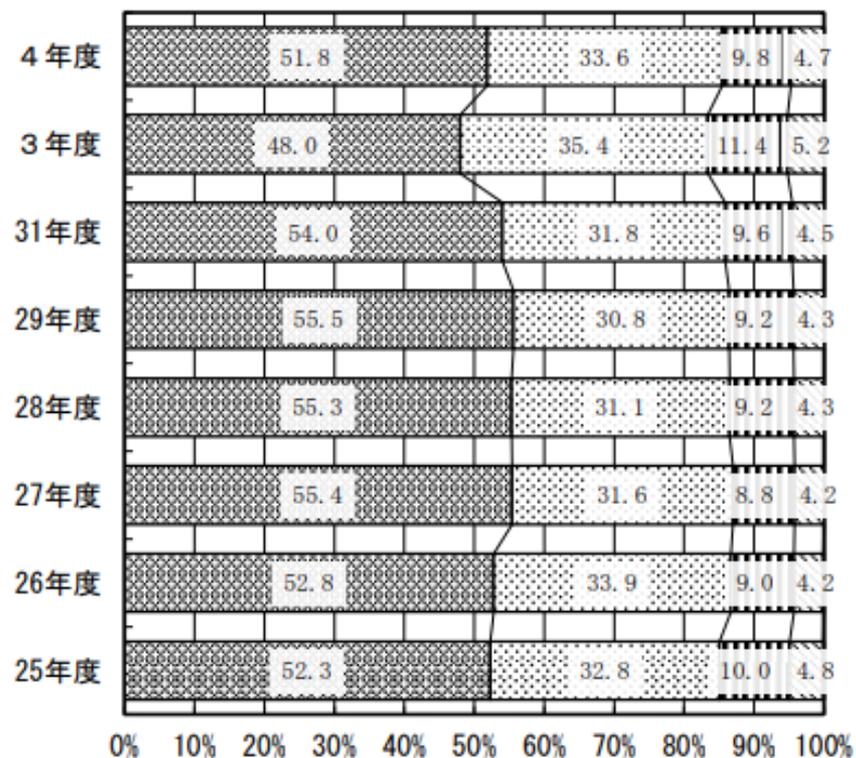
文部科学省・国立教育政策研究所

令和4年7月28日

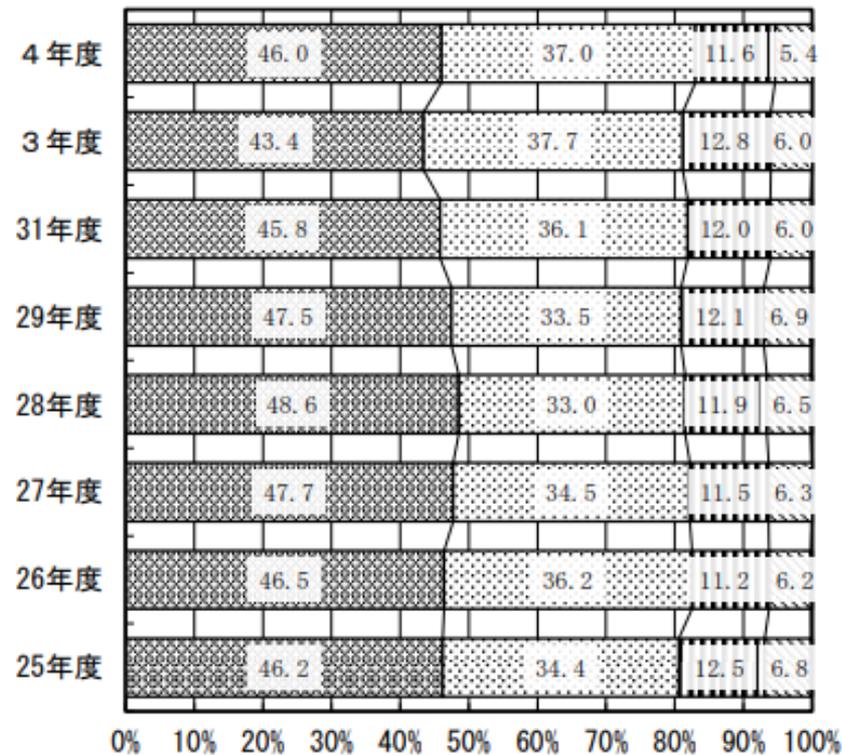
児童生徒質問紙

	質問番号	質問事項
小	16	学校に行くのは楽しいと思いますか
中	16	

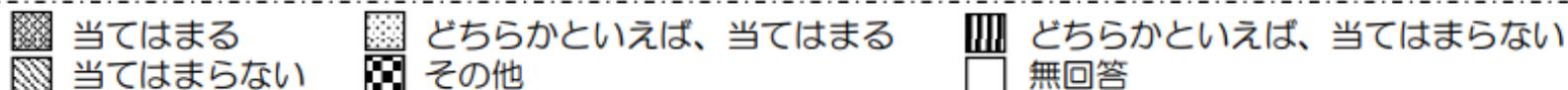
【小学校】



【中学校】

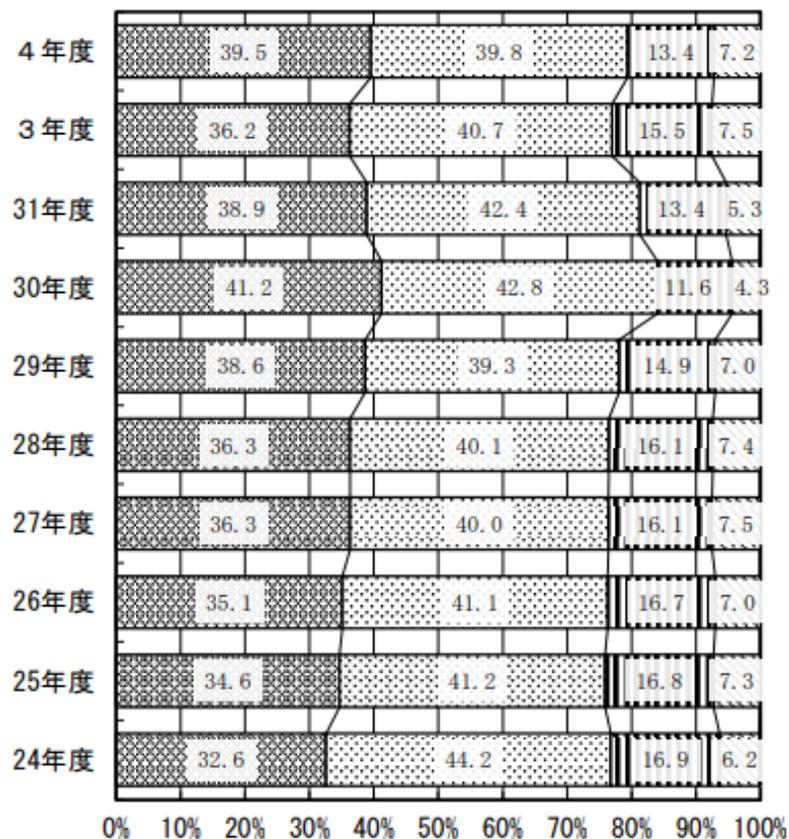


児童生徒質問紙

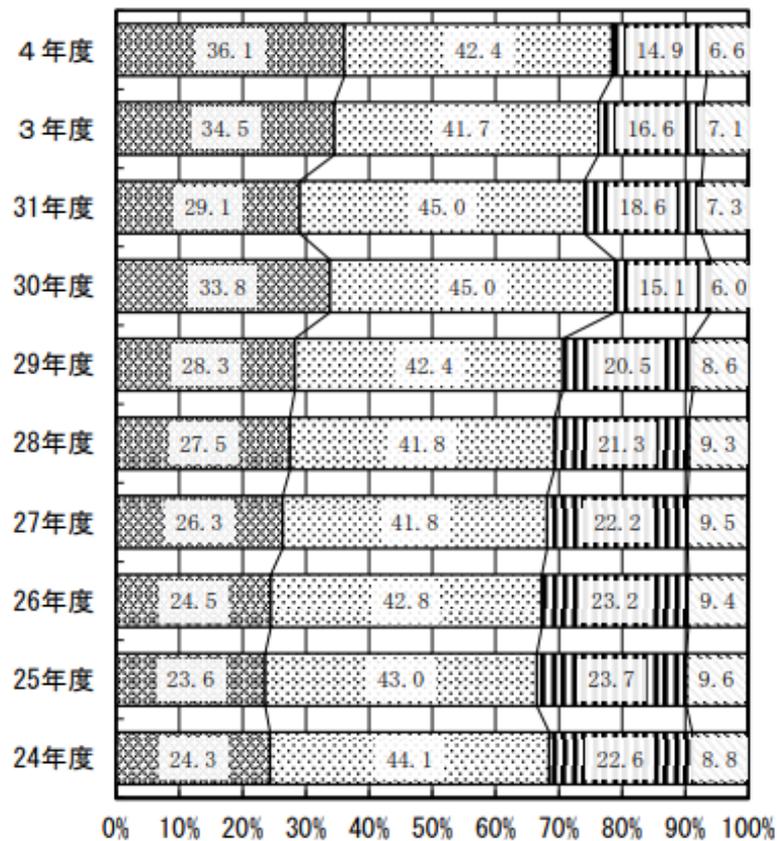


	質問番号	質問事項
小	7	自分には、よいところがあると思いますか
中	7	

【小学校】



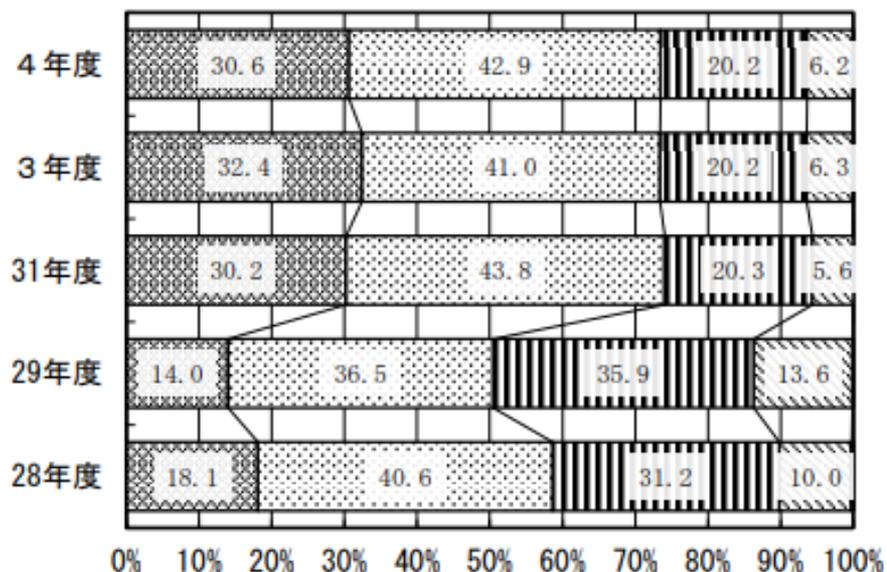
【中学校】



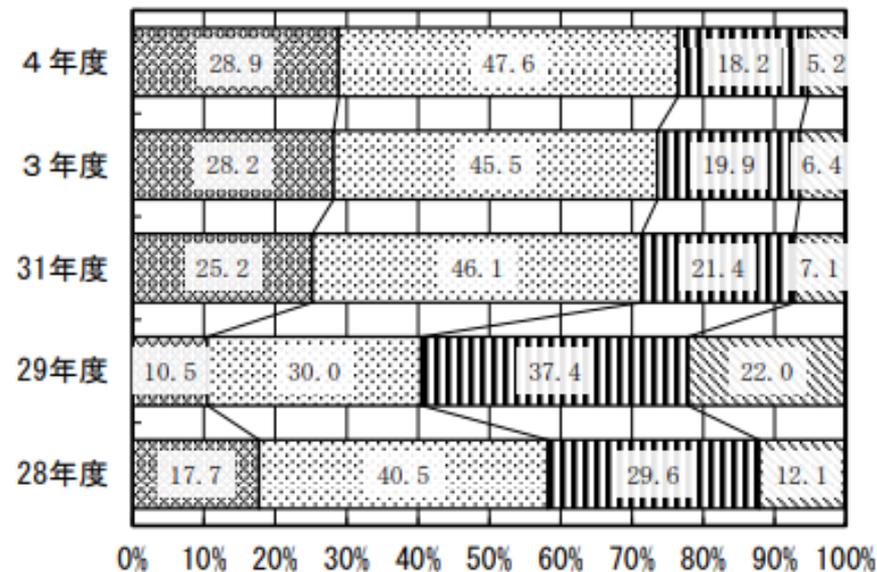
児童生徒質問紙

	質問番号	質問事項
小	46	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
中	46	

【小学校】



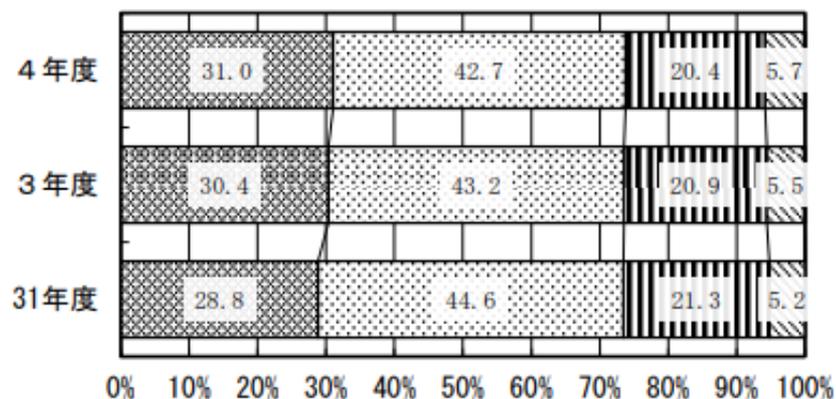
【中学校】



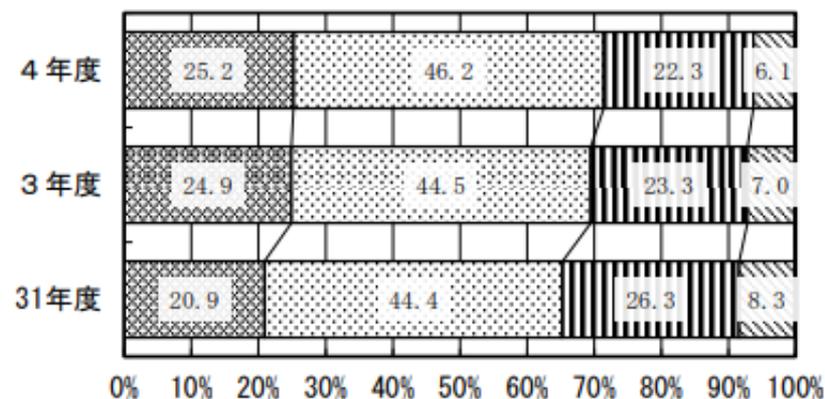
児童生徒質問紙

	質問番号	質問事項
小	47	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
中	47	

【小学校】



【中学校】



小学校特別活動映像資料

学級活動編

見て
学べる

授業で
使える

研修会で
使える

学級
活動編

小学校特別活動映像資料



本パンフレットに掲載されている映像資料については、国立教育政策研究所のホームページから視聴できます。左記二次元コードもしくは、URL <https://www.nier.go.jp/>よりアクセスし、視聴してください。

令和4年3月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

小学校特別活動映像資料 パンフレット 目次

学級活動(1)	解説 学級活動(1)とは	1
低・中・高/児童・授業・教師	学級会をしよう(入門期の学級会)	5
低・中・高/児童・授業・教師	学級会を開こう	6
低・中・高/児童・授業・教師	計画委員会の進め方	7
低・中・高/児童・授業・教師	よりよい話し合いのために	8
低・中・高/児童・授業・教師	係活動しよう	9
低・中・高/児童・授業・教師	学級集会を開こう	10
低・中・高/児童・授業・教師	学級活動(1)の指導の工夫(学級会編)	11
低・中・高/児童・授業・教師	学級活動(1)の指導の工夫(係活動・学級集会活動編)	12
学級活動(2)	解説 学級活動(2)とは	13
低・中・高/児童・授業・教師	みのまわりのせいりせいとん	14
低・中・高/児童・授業・教師	すききらいのない食べ方	15
低・中・高/児童・授業・教師	大切な友達	16
低・中・高/児童・授業・教師	感せんしようからの身の守り方	17
低・中・高/児童・授業・教師	SNSとの上手な付き合い方	18
低・中・高/児童・授業・教師	学級活動(2)の指導について	19
学級活動(3)	解説 学級活動(3)とは	20
低・中・高/児童・授業・教師	当番のしごと	21
低・中・高/児童・授業・教師	学びのパワーアップ	22
低・中・高/児童・授業・教師	学級活動(3)の指導について	23

本映像資料 パンフレットの使い方

①本映像の内容・主な視聴対象者・動画の時間を掲載!

②視聴時期や活用方法を確認

③授業のねらいや事前準備はここを確認!

④本時の展開がひと目で分かる!

⑤映像構成・学習の流れを要チェック!

豊かな感性を育てる「体験活動
・ 集団宿泊活動」の一層の充実

平成20年改訂における「重点的に行う体験活動」

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」 中央教育審議会答申 平成20年1月17日（一部抜粋）

○～学校教育においては、

- 自己が明確になり、自覚されるようになる**小学校**の時期においては、自然の偉大さや美しさに出会ったり、身近な学校の仲間とのかかわりを深めたりする**自然の中での集団宿泊活動**、
 - 大人が社会で責任を果たしていることに気づき、進路を自分の問題として考え始める**中学校**の時期においては、職場での体験を通して社会の在り方を垣間見ることにより**勤労観・職業観をはぐくむ職場体験活動**、
 - 自分と他者や社会との関係について考えを深める**高等学校**の時期においては、人に尽くしたり社会に役立つことのやりがいを感じることで、自分の将来展望や社会における自分の役割について考えを深めることが期待できる**奉仕体験活動や就業体験活動**、
- をそれぞれ**重点的に推進**することが適当である。特に、職場体験活動や就業体験活動はキャリア教育の視点からも重要な役割を果たすものである。

H28中央教育審議会答申より（一部抜粋）平成28年12月21日

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」 中央教育審議会答申

（子供たちの現状と課題）

○子供たちが活躍する将来を見据え、一人一人が感性を豊かにして、人生や社会の在り方を創造的に考えることができるよう、**豊かな心**や**人間性**を育てていく観点からは、子供が自然の中で**豊かな体験**をしたり、文化芸術を体験して感性を高めたりする機会が限られているとの指摘もある。子供を取り巻く地域や家庭の環境、情報環境等が劇的に変化する中でも、子供たちが**様々な体験活動**を通じて、生命の有限性や自然の大切さ、自分の価値を認識しつつ他者と協働することの重要性などを、実感しながら理解できるようにすることは極めて重要であり、そのために、学級等を単位とした集団の中で体系的・継続的な活動を行うことのできる学校の場を生かして、地域・家庭と連携・協働しつつ、**体験活動の機会を確保**していくことが課題となっている。

H28中央教育審議会答申より（一部抜粋）平成28年12月21日

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」 中央教育審議会答申

2. 「生きる力」の育成に向けた教育課程の課題（1）

○「生きる力」の実現という観点からは、前回改訂において重視された学力の三要素のバランスのとれた育成や、各教科等を貫く改善の視点であった言語活動や体験活動の重視等については、学力が全体として改善傾向にあるという成果を受け継ぎ、引き続き充実を図ることが重要であると考えます。

3. 発達の段階や子供の学習課題等に応じた学びの充実

○また、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動も極めて重要であり、体験活動を通じて、様々な物事を実感を伴って理解したり、人間性を豊かにしたりしていくことも求められます。

自然の中での体験活動の教育的意義

- (1) 直接体験を通して、感性を豊かにする。
- (2) 知的好奇心や思考力・判断力・表現力を育てる。
- (3) 生活力を高め、社会的自立を促進する。
- (4) 自己価値観を形成し、人間理解を深める。
- (5) 連帯感や仲間意識を育て、人間関係を深める。

豊かな体験活動



体験することで実感・体得

コロナ禍の小・中学校における
集団宿泊的行事に関する調査
(国立青少年教育振興機構)

夢中になって感動体験

コロナ禍における

自然の中の集団宿泊活動のススメ

(「コロナ禍の小・中学校における集団宿泊的行事に関する調査」報告)

令和3年6月

国立青少年教育振興機構



国立青少年教育振興機構では、国立青少年教育施設を利用してコロナ禍における集団宿泊的行事を行った小・中学校の教員(以下、「**教員対象調査**」という。)と児童・生徒(以下、「**児童・生徒対象調査**」という。)を対象に調査を実施。

機構では、コロナ禍にあつて、**児童・生徒の課題**、コロナ禍で実施された**集団宿泊的行事の成果**を分析し、学校関係者が安心して**集団宿泊的行事を実施できる安全管理体制**を整え、安全で有意義な**集団宿泊的行事**を実施していただけるように準備しております。

結果1. コロナ禍における児童・生徒の課題

教員対象調査による児童・生徒の緊急事態宣言による休業後1ヶ月程度の様子

「体力的な課題」

- 「体力がない」……(78.3%)
- 「身体的な体調を崩す」……(43.4%)
- 「ケガをする」……(29.3%)



「生活習慣の乱れによる課題」

- 「眠そうにしている」……(54.4%)
- 「学習意欲が低い」……(30.4%)
- 「活動意欲が低い」……(26.1%)

「メンタル面での課題」

- 「落ち着きがない」……(39.2%)
- 「不安そうにしている」……(33.7%)
- 「イライラしている」……(22.9%)

「人間関係の希薄化」

「児童・生どうしの人間関係が希薄だった」(25.0%)
「教師と児童・生徒との信頼関係が希薄だった」(14.1%)
など人間関係の希薄化が問題視されている。



児童・生徒調査によるストレス反応

児童・生徒が感じている「ストレス反応」

「コロナ禍でストレスを感じる」(小学生14.7%・中学生23.5%)
「やる気の面で困難を感じる」(小学生18.4%・中学生32.2%)
など児童・生徒も自ら感じていた。

結果2. コロナ禍における自然の中での集団宿泊活動の成果

児童・生徒対象調査による集団宿泊活動の成果 コロナ禍におけるストレス反応の減少

「メンタル面での課題の改善」(小学生)

- 「怒りの感情」……(事前に比べ事後・1ヶ月後ともに低下)
- 「引きこもりの感情」……(事前に比べ事後は低下)
- 「自信の感情」……(事前に比べ事後・1ヶ月後ともに向上)
- 「やる気の感情」……(事前に比べ事後は向上)

「メンタル面での課題の改善」(中学生)

- 「怒りの感情」……(事前に比べ事後は低下)
- 「やる気の感情」……(事前に比べ事後は向上)

「ソーシャルサポート」は、小・中学校とともに事後の方が向上し、人間関係が深まったことが伺える。

教員対象調査による集団宿泊的行事における目標の達成状況と児童・生徒の様子



「児童・生徒の様子」

- 「楽しんで活動」……(100%)
- 「のびのびと活動」……(98.9%)
- 「仲良く活動」……(98.9%)
- 「協力し合って活動」(98.9%)

【臨時休業後の児童・生徒や学級の様子】

臨時休業を終え学校を再開してから1ヶ月程度の間
の児童・生徒や学級の様子について、「見られた」また
は「どちらかというに見られた」と回答した学校の
割合が50%以上の項目は、全15項目のうち、
「体力のない児童・生徒が目立った」78.3%、
「授業中、眠そうにしている児童・生徒が目立った」
54.4% の2項目であった。

生活面に関する項目は、「授業中、眠そうにしてい
る児童・生徒」が54.4%、「**身体的な体調を崩す**児
童・生徒」が43.4%、「**ケガをする**児童・生徒」が
29.3%、「学校に遅刻する児童・生徒」が19.6%
であった。

学習面に関する項目は、「学習の遅れをきたしている児童・生徒」が 44.5%、「学習意欲の低い児童・生徒」が 30.4%、「活動意欲の低い児童・生徒」が 26.1%であった。

情緒面に関する項目は、「不安そうにしている児童・生徒」が 33.7%、「イライラしている児童・生徒」が 22.9%であった。

生活態度面に関する項目は、「落ち着きのない児童・生徒」が 39.2%、「ルールを守れない児童・生徒」が 20.7%であった。

人間関係に関する項目は、「児童・生徒どうしの人間関係が希薄だった」が 25.0%、「児童・生徒と教員との信頼関係が希薄だった」が 14.1%であった。

児童・生徒対象調査による集団宿泊活動の成果 コロナ禍におけるストレス反応の減少

「メンタル面での課題の改善」(小学生)

「怒りの感情」・・・(事前に比べ事後・1ヶ月後ともに低下)

「引きこもりの感情」・・・(事前に比べ事後は低下)

「自信の感情」・・・(事前に比べ事後・1ヶ月後ともに向上)

「やる気の感情」・・・(事前に比べ事後は向上)

「メンタル面での課題の改善」(中学生)

「怒りの感情」・・・(事前に比べ事後は低下)

「やる気の感情」・・・(事前に比べ事後は向上)

「ソーシャルサポート」は、小・中学校ともに事後の方が向上し、人間関係が深まったことが伺える。

「青少年の体験活動等に 関する実態調査」より

自然体験と自立的行動習慣、自己肯定感の関係

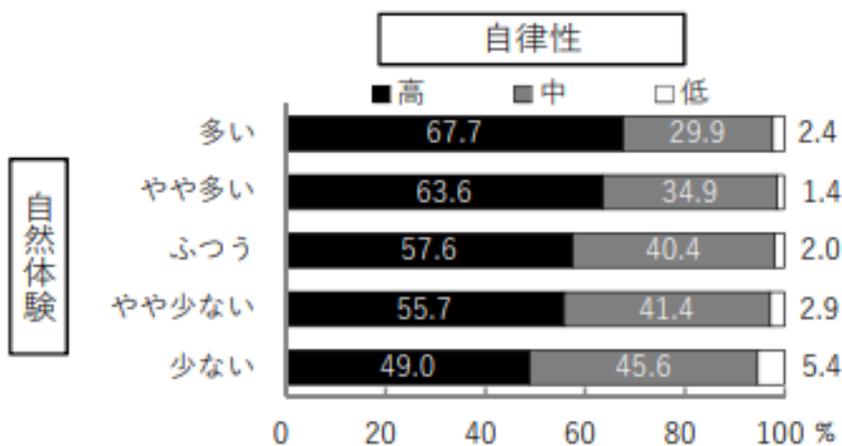


図7 自然体験と自律性の関係
(小4～小6、中2、高2)

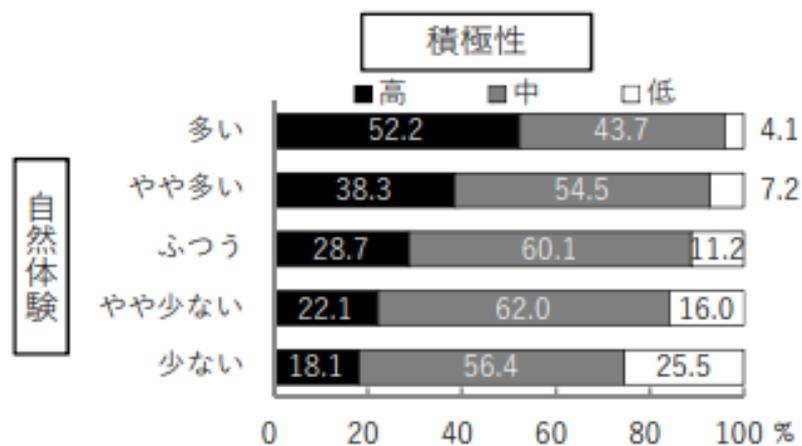


図8 自然体験と積極性の関係
(小4～小6、中2、高2)

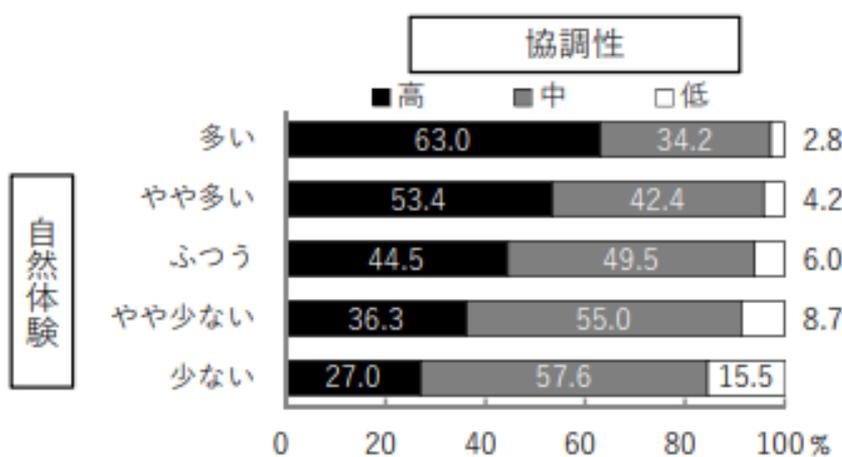


図9 自然体験と協調性の関係
(小4～小6、中2、高2)

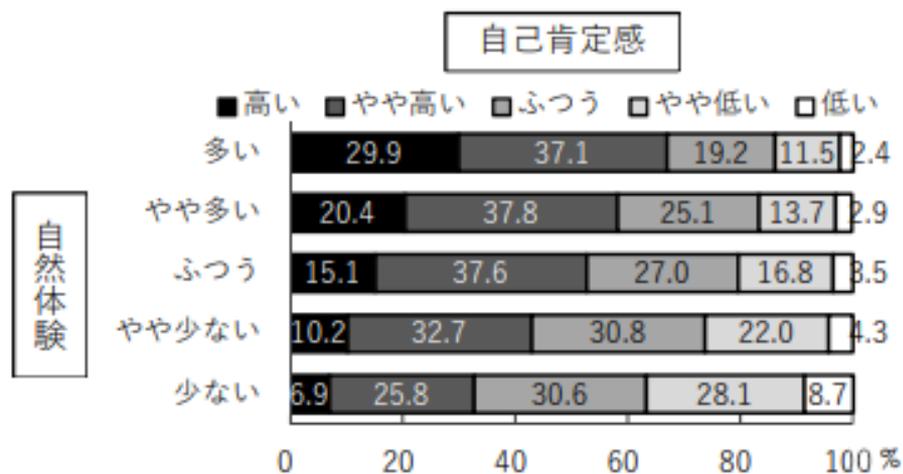


図10 自然体験と自己肯定感の関係
(小4～小6、中2、高2)

自然体験と道徳観・正義感の関係

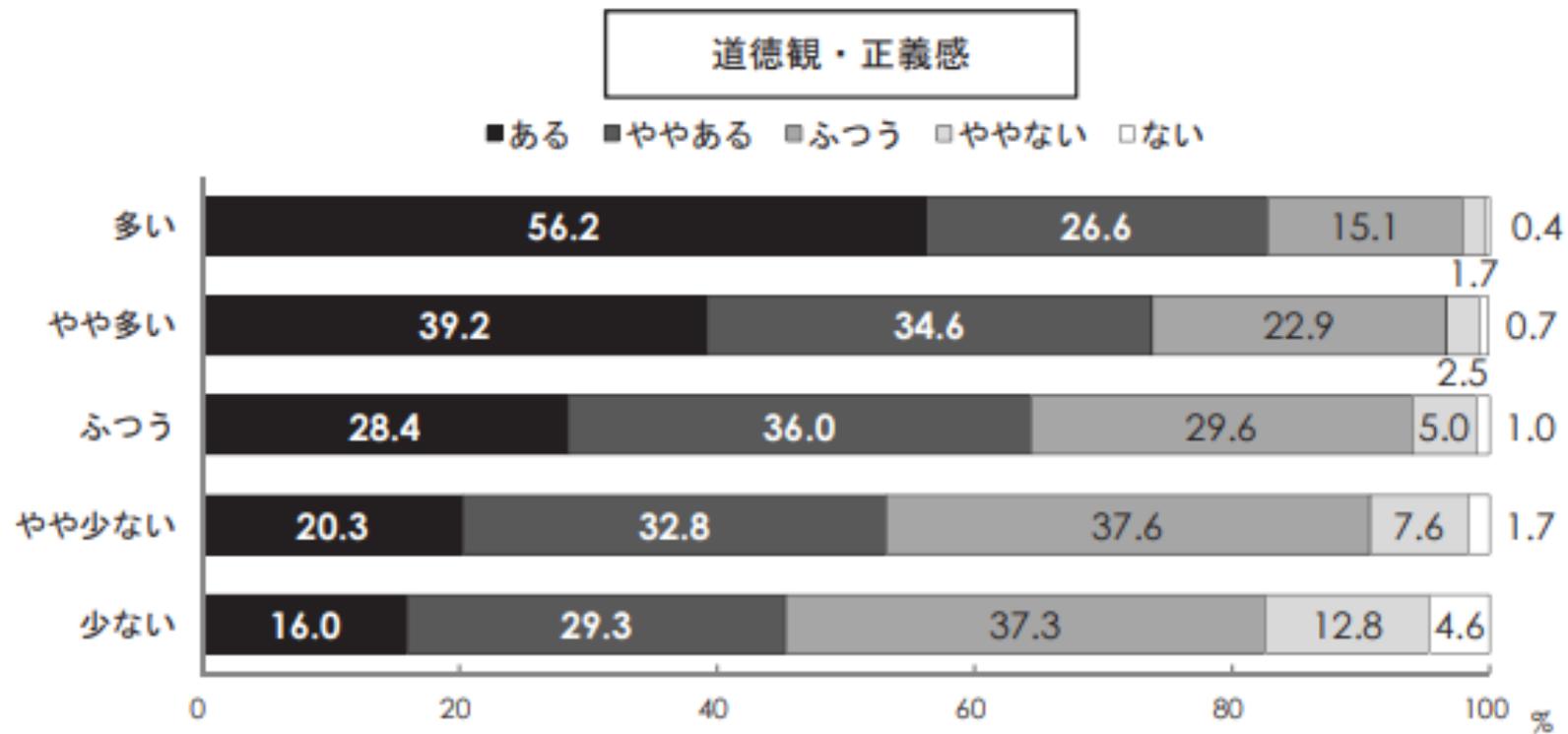


図 3-3-34 自然体験と道徳観・正義感の関係（小4～小6、中2、高2）

自律性、積極性、協調性と自己肯定感の関係

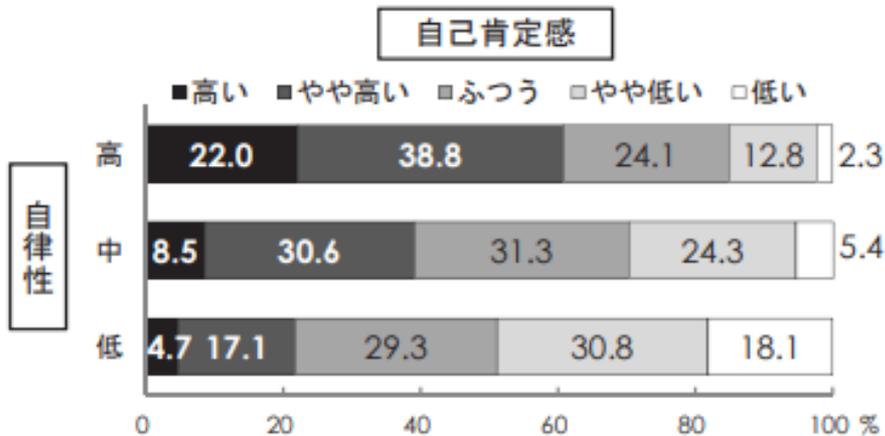


図 3-4-4 自律性と自己肯定感の関係
(小4～小6、中2、高2)

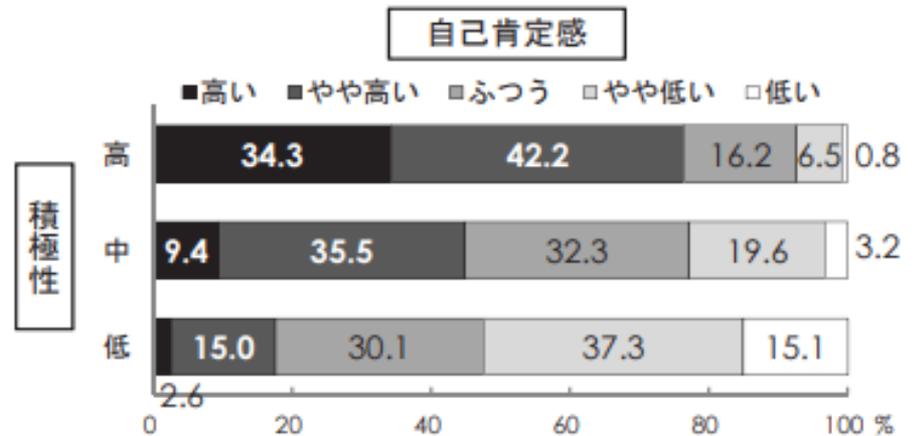


図 3-4-5 積極性と自己肯定感の関係
(小4～小6、中2、高2)

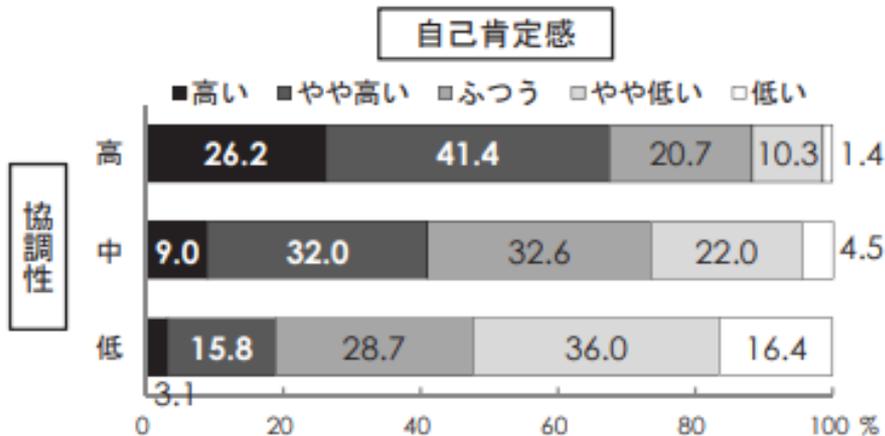
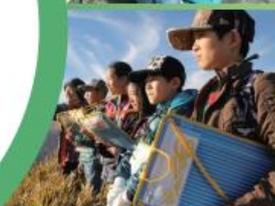


図 3-4-6 協調性と自己肯定感の関係
(小4～小6、中2、高2)



青少年の体験活動などの効果を経年的な視点から分析を行ったところ、

子どもの頃の「体験」は
未来社会を担う
子どもたちの
健やかな成長を
確かなものにする
ために必要な要素であることが
見えてきました



結果
1

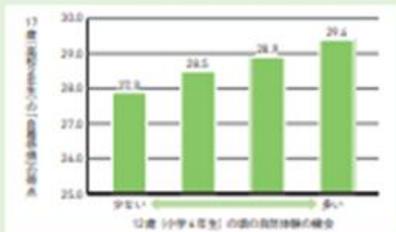
小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました

21世紀出生児縦断調査で回答されたデータを再分析したところ、小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お子伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足している、など）や外向性（自分のことを活発だと思う）、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き、など）といった項目の得点が高くなる傾向が見られました。また、小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も同様の傾向が見られました。

このことから、**小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えていることが分かりました。**また、経験した内容（体験活動や読書、遊び、お子伝い）によって影響が見られる意識や時期が異なることから、子どもの健やかな成長を確かなものにしていくためには、1つの経験だけでなく、多様な経験をする必要があるということも見えてきました。

「体験活動」の影響

体験を多くすることによる影響を自然体験（キャンプ、登山、川遊び、ウィンタースポーツなど）、社会体験（農業体験、職業体験、ボランティア）、文化的体験（動物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など）に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小・中・高校生の時期の向学意識（勉強・授業が楽しい）、文化的体験は全ての意識（裏面参照）に良い影響が見られることが分かりました。

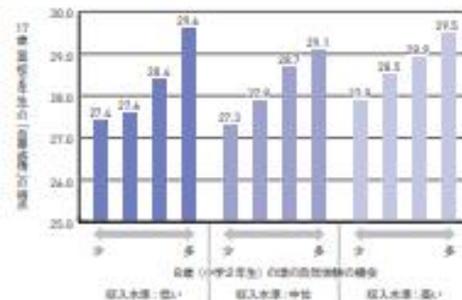


結果
2

体験をよくしていると、家庭の経済状況に関わらず、良い影響が見られることが分かりました

子どもの成長には家庭環境の要因も影響することが考えられることから、子どもが置かれている環境（家族構成、収入、住環境、親のしつけ）を考慮して体験の影響を分析しました。その結果、小学校の頃に体験活動などをよくしていると、家庭の環境に関わらず、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。

そこで、世帯収入の水準別に分けて体験と意識との関係を分析したところ（右図参照）、収入の水準が相対的に低い家庭にある子どもであっても、例えば、自然体験の機会に恵まれていると、家庭の経済状況などに左右されることなく、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。



学習指導要領（平成29年告示）に おける体験活動・集団宿泊活動

学習指導要領における体験活動・集団宿泊活動

小学校学習指導要領 第1章 総則

第6 道徳教育に関する配慮事項 3

(3) 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、**集団宿泊活動**やボランティア活動、**自然体験活動**、地域の行事への参加などの**豊かな体験を充実**すること。また、道徳教育の指導内容が、児童の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。

小学校学習指導要領 第6章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学校行事〕（4）遠足・集団宿泊的行事

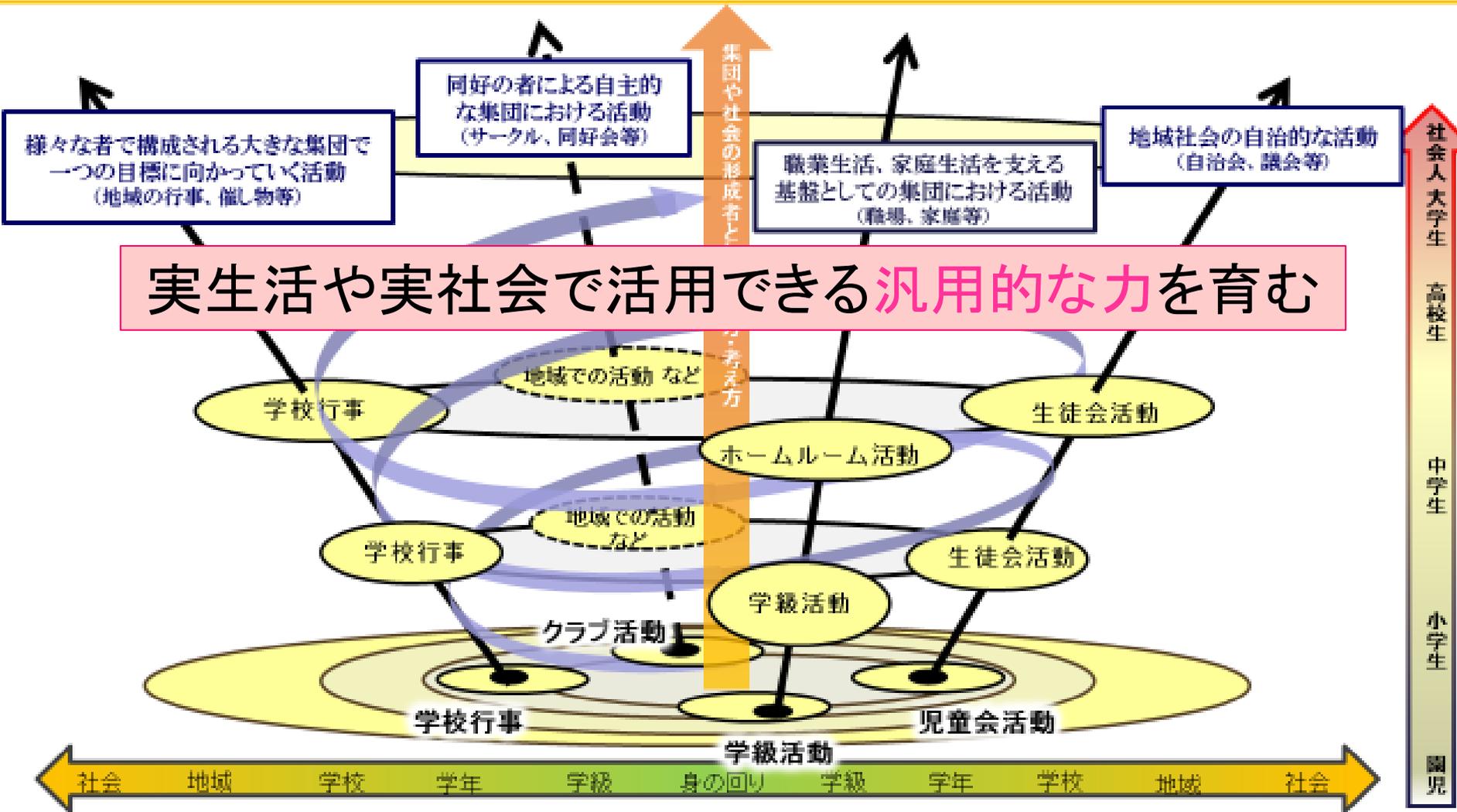
自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験をつむことができるようにすること

特別活動において育成を
目指す資質・能力

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ)

《集団や社会の形成者としての「見方・考え方」》

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、**よりよい人間関係の形成**、**よりよい集団生活の構築**や**社会への参画**及び**自己の実現**に関連付けること



特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成

違いを認め合い、みんなと
共に生きていく力を育てます。

社会参画

よりよい集団や社会をつく
ろうとする力を育てます。

自己実現

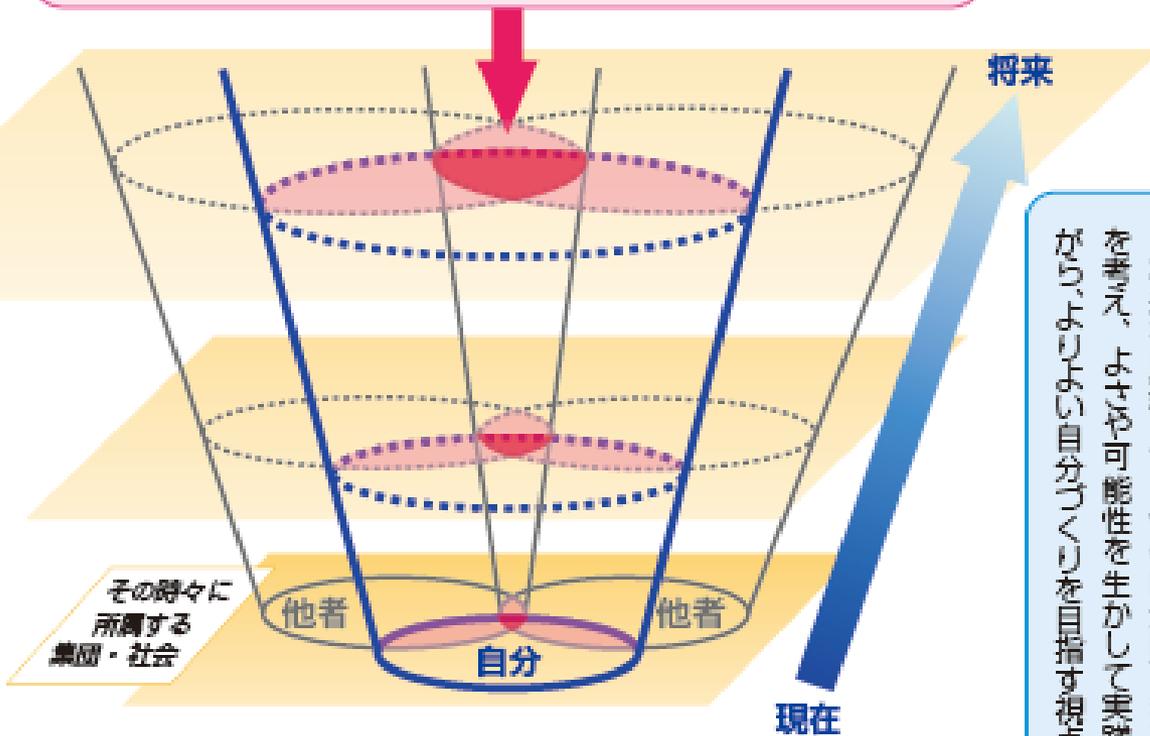
なりたい自分に向けてがん
ばる力を育てます。

築きたい人間関係

「個と個」や「個と集団」の関わりの中で、互いのよさを生かし、
協働して取り組み、よりよい人間関係を築こうとする視点です。

児童が現在、そして将来に所属する様々
な集団や社会に対して積極的に関わり、よ
うな関係を築いていくことを目指す視点です。

へんこうする社会



なりたい自分

将来を見据えて、今の自分について考えること
を考え、よきよきや可能性を生かして実現しな
がら、なりたい自分になることを目指す視点です。

育成すべき資質・能力における三つの視点に関わり合って
成長していくことを示したものです。

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 【知識及び技能】

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の（人間としての）生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

(※ () は中学校)

【学びに向かう力、人間性等】

特別活動で育成を目指す資質・能力の視点：「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」

小学校 学校行事の種類

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事の行事
- (4) 遠足・集団宿泊の行事
- (5) 勤労生産・奉仕の行事

小学校 学校行事の目標

1 目標

全校または学年の児童で協力し、**よりよい学校生活を築くための体験的な活動**を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、**第1の目標に掲げる資質・能力**を育成することを旨とする。

遠足・集団宿泊的行事の内容

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

遠足・集団宿泊的行事のねらい

校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実発展させる。また、校外における集団活動を通して、教師と児童、児童相互の人間的な触れ合いを深め、楽しい思い出をつくる。さらに、集団生活を通して、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、集団生活の在り方について考え、実践し、互いを思いやり、共に協力し合ったりするなどのよりよい人間関係を形成しようとする態度を養う。

【遠足・集団宿泊的行事で育成することを 目指す資質・能力の例】

- 遠足・集団宿泊的行事の意義や校外における集団生活の在り方，公衆道徳などについて理解し，必要な行動の仕方を身に付けるようにする。
- 平素とは異なる生活環境の中での集団生活の在り方やよりよい人間関係の形成について考え，自然や文化などに触れる体験において活用したり応用したりすることができるようにする。
- 日常とは異なる環境や集団生活において，自然や文化などに関心をもち，積極的に取り組もうとする態度を養う。

小学校学習指導要領 第6章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学校行事〕 3 内容の取扱い

(1) 児童や学校，地域の実態に応じて，2に示す行事の種類ごとに，行事及びその内容を重点化するとともに，各行事の趣旨を生かした上で，行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること。また，実施に当たっては，自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに，体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりするなどの事後の活動を充実すること。

学校行事の学習過程(例)

学校行事

①学校行事の意義の理解

活動内容

各学校行事(儀式的行事, 文化的行事, 健康安全・体育的行事, 遠足・集団宿泊的行事, 勤労生産・奉仕的行事)の意義の理解

現状の把握, 課題の確認, 目標の設定等

②計画や目標についての話し合い

学校が設定する計画等に基づく話し合い
(各学校行事について児童に任せることのできる一部の活動目標, 計画, 内容, 役割分担等に関して)

③活動目標や活動内容の決定

活動目標や活動内容の決定と共通理解

④体験的な活動の実践

他者との協働による実践
(学級活動, 児童会活動, クラブ活動と連携を図るなど, 主体的運営)

⑤振り返り

活動の振り返り
(まとめたり発表し合ったりする)
実践の継続や新たな課題の発見
結果の分析
(次の行事や次年度の行事に生かす)

次の活動や課題解決へ

集団宿泊活動については、よりよい人間関係を形成する態度を養うなどの教育的な意義が一層深まるとともに、いじめの未然防止等や不登校児童の積極的態度の醸成や自己肯定感の向上等の高い教育効果が期待される。

そこで、学校の実態や児童の発達段階を考慮しつつ、一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる。その際、児童相互のかかわりを深め、互いのことをより深く理解し、折り合いを付けるなどして人間関係などの諸問題を解決しながら、協調して生活することの大切さが実感できるようにする。

学校行事においては、学芸会、作品展、音楽会、運動会、遠足、集団宿泊活動、修学旅行、飼育栽培活動など各種の行事が行われており、これらは、**各教科等の学習と深い関わりをもつものが多い**。逆に、**様々な行事の経験が各教科等の学習に生きるなど、学校行事と各教科等は深い関わりをもっている**。

このように学校行事は、**児童が日常の学習や経験を総合的に発揮し、発展を図る教育活動であり、各教科等では容易に得られない体験活動である**。また、儀式的行事などにおける国旗及び国歌の指導については、社会科や音楽科などにおける指導と十分に関連を図ることが大切である。

(小学校学習指導要領解説特別活動編)

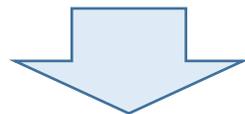
集団宿泊活動など、多様な集団活動の経験の中で、**集団活動の運営や役割を果たす**活動を通して

自分なりの考えを深め、集団の一員としての役割貢献、リーダーシップの発揮などのあり方やめあてをもって取り組むことができるようにする。



場や機会の充実

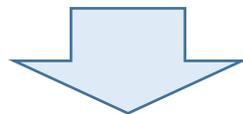
実践活動において学級又は学校の一員としての役割を果たしたり、学校行事における体験活動や集団宿泊活動に参加したりすること



自己の役割や責任を果たして生活すること
や他者と共生しながら生きていくことなど
についての考えを深めることができる

自分への自信を高め、自己実現を図ることにつながる

学校生活への満足感や充実感に大きく貢献



特色ある学校づくりを進め、よりよい校風をつくる

創意工夫して教育活動を推進することが大切！

自己有用感、自己効力感を高める

「役割を果たす」⇒「役に立ってよかった」
「自分もやればできる」

協力し合って実践する

「互いのよさやがんばりに気付く」

将来に向け、「自分らしい生き方の実現」

「自分のよさや可能性を発揮できるようにする」
⇒振り返りの工夫、「キャリア・パスポート」の活用

これまでと同じようにはできない。だからこそ、
創意工夫して実践することが求められる。